



未来の広報図 子供たちのサイン

東北支部代表

鈴木 亮 太

盛岡地区広域消防組合消防本部（岩手県）

令和2年4月1日に消防吏員を拝命し、現在は紫波消防署の予防係員として予防業務を中心に積極的に取り組み、災害現場では消防隊及び救急隊として第一線で活躍しています。持ち前の明るい性格は職場のムードメーカーでもあり、また、技術や知識の研鑽に日々励む姿勢は、上司からの信頼も厚く、将来を嘱望される職員です。

「いつも消防車で広報をしているみたいだけど、毎回のことだからどうも聞き流しちゃうんだよな。」
これは、一般住宅の防火指導で住民から言われた言葉です。

この時私は、消防署が重点的に取り組んでいる火災予防広報が、住民の心に届いていないことに気が付きました。これまでの広報活動は、車両広報や公共施設などの館内放送で行うことが多いため、車両広報の時間帯に居合わせた人や、公共施設などの利用者の耳にしか届いていないのかもしれない。これまでの方法では、広報を聞く人に偏りができてしまい、その内容や音声も同じパターンが多いため、慣れが生じて聞き流され、聞く人の心に届いていなかったのではないのでしょうか。

もっと聞く人の心に届けるためには、消防署の取組だけではなく、何か工夫を加えた広報活動が必要であるとの思いから、地域の「子供たちの声」に着目しました。

子供の声は、周波数が高いため、人間の本能的な反応により、とても聞きやすく、注意を引きやすい特性があるといわれています。私は、この特性を活かし、管内七つの幼少年消防クラブと一緒に、地域性を盛り込んだ広報文を考え、これをクラブ員の音声として録音し、消防署と消防団の車両広報や公共施設などの放送に取り入れてみました。

「おでかけ前に火の元確認 みんなで守ろうぼくらの未来」

すると、その音声を聞いた住民の方からは、「どこからか子供たちの声が聞こえると思ったら、消防署の火災予防広報でした。とても新鮮味がありますね。子供たちの未来のためにも火事には気をつけなきゃね。」との反応がありました。

また、実際に協力してくれたクラブ員からも、「僕たちの声が、町の人々を守るんだね。」と、その笑顔は誇らしげでした。私は、新しい声が住民の心に届いたこと、そして、未来を担う子供たちの心に防火の意識が芽生え、育成にも繋がっていると強く実感しました。

次に、若い世代を含めた、より多くの人々にいつでもどこでも幅広く声を届けることができるように、「子供たちの声」のQRコードを町の担当課に依頼し、町の広報誌、公共施設、消防車両へと様々な形で掲示しました。すると、QRコードの付いた消防車両に興味を持った中高生が、携帯電話で次々に読み取り、この火災予防広報に耳を傾けてくれたのです。これにより、再生回数は飛躍的に伸び、今までのように時間や場所に縛られていた広報の課題を解決し、より多くの人々に声を届けていける可能性を感じました。

この地域に密着した地元ならではの広報文を「子供たちの声」にして活用し、さらにはQRコード化という現代に谷致させた2つの取組で、地域の未来を築く声を広く届けることができたと確信しています。

今後は音声だけでなく、写真や動画などを活用し、視覚的情報を含んだ多くの声を届けていくことで、全ての世代の心に響く広報を展開していきます。

消防署、消防団、市役所などの行政機関、そして未来を担う子供たちが連携し、地域が一丸となった取組で管内からの火災を無くす。この思いで新たなる可能性を見いだしていき、地域と共に歩みを進めることが、何年経っても色あせることのないこれからの新しい広報の姿なのです。

さあ、「子供たちの声」というサインから未来の予防広報図を描いてみませんか。